

令和3年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	公益財団法人横須賀芸術文化財団	
施 設 名	横須賀芸術劇場	
助成対象活動名	普及啓発事業	
内定額(総額)	10,797	(千円)
	0	(千円)
	0	(千円)
	10,797	(千円)

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッ	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ヨコスカジャズドリーム ス2021 35th Anniversary	①令和3年7月24日 ②7月3日～24日 ③7月3日	①ヨコスカジャズドリーム ス2021 35th Anniversary [出演]Girls 3 Sax(矢野沙 織×小林香織×ユッコ・ミ ラー) with 井上陽介トリ オ/寺井尚子カルテット/ デヴィッド・マシューズ ス ペシャル・ビッグバンド ゲスト:川嶋哲郎/ケイコ・ リー ②ジャズドリームス写真展 ③川嶋哲郎&ヨコスカジャ ズドリームズ スペシャル・ ライブ [出演]川嶋哲郎、安田幸 司、力武誠、宮脇惇	目標値	参加者数:32名 (公演28名、商 業施設ライブ4 名) 入場者数:1,200 名(公演800名 /写真展300名 /商業施設ライ ブ100名)
		①よこすか芸術劇場 ②横須賀 HUMAX シネマ ズ ロビー ③横須賀 HUMAX シネマ ズ Movie Theatre		実績値	参加者数:32名 (公演28名、商 業施設ライブ4 名) 入場者数:1,503 名(公演1,032 名/写真展300 名/商業施設ラ イブ171名)
2	第12回米海軍第7艦隊バ ンド&横須賀交響楽団フ レンドシップ・コンサー ト アメリカン・サウン ド・イン・ヨコスカ	—	※新型コロナウイルス感染 症の影響により公演は中 止。	目標値	参加者数:123名 (出演者) 入場者数:800名
		—		実績値	

3	令和3年度 横須賀芸術劇場少年少女合唱団活動	<p>[活動期間] 令和3年4月8日～令和4年3月31日</p> <p>[サマー・コンサート'21] 令和3年7月11日</p> <p>[クリスマス・コンサート'21] 令和3年12月19日</p> <p>[全日本合唱コンクール課題曲セミナー用動画収録] 令和3年7月15日</p>	<p>横須賀芸術劇場の専属児童合唱団として1997年に創立した少年少女合唱団。コロナ禍において活動が制限されたが、対策を施して年2回の定期演奏会と、外部依頼の収録を実施。</p>	目標値	<p>参加者数：143名 (団員140名、指導者3名) 入場者数：1,400名 (サマー・コンサート700名、クリスマス・コンサート700名)</p>
		<p>横須賀芸術劇場</p>	<p>※新型コロナウイルス感染症の影響により市内福祉施設への訪問コンサート(2回)は中止とした。</p> <p>[サマー・コンサート] [クリスマス・コンサート] 出演：横須賀芸術劇場少年少女合唱団 指揮：淵上千里、廣橋英枝 ピアノ：水戸見弥子</p> <p>[全日本合唱コンクール課題曲セミナー用動画収録] 指揮：長谷川冴子 ピアノ：水戸見弥子</p>	実績値	<p>参加者数：125名 (団員122名、指導者3名) 入場者数：1,333名 (サマー・コンサート436名、クリスマス・コンサート897名)</p>

4	令和3年度 横須賀芸術 劇場合唱団活動	令和3年11月12日～ 12月4日 ※	内容：第九合唱ワークショ ップ 横須賀芸術劇場合唱団、指 揮：梅沢一彦、ピアノ：松本 康子	目標値	参加者数：200名 (合唱団200名/ オーケストラ80 名) 入場者： 800名
		よこすか芸術劇場他		実績値	参加者数 ※ 110名
5	劇場オープンデー／バック ステージツアー／子ども のための劇場裏側探検 ツアー	劇場オープンデー*中 止／バックステージツ アー 令和3年5月3 日、令和4年3月15 日／子どものための劇 場裏側探検ツアー 令 和3年10月30日、31 日	劇場スタッフによる参加型 劇場バックステージツア ーを実施	目標値	参加者数1,030 名(オープンデー-舞 台発表400名、 WS他イベント参加者 420名、バックス テージツアー-210名) / 入場者：1,100名
		よこすか芸術劇場		実績値	参加人数169名 (バックステージツア ー90名/子ども のための裏側探検 ツアー79名)
6	令和3年度アーティスト 派遣事業	①ジャズライブ 令和3年6月8日 令和3年6月22日 ②能楽ワークショップ 令和3年10月7日 令和3年11月9日 令和3年12月24日	① WOOD FORD ジャズライブ 宮脇惇(クラリネット)、渡 部良介(ギター)、入船裕次 (ウッドベース)計3名 内容：ジャズの街横須賀の 歴史についてのレクチャ ー、実演、生徒との合奏。 ② 能楽ワークショップ 観世喜正(観世流シテ方) 内容：事前配布テキストに 沿った能楽の歴史、能舞台、 使用楽器などの説明、能の すり足体験、謡の実演、映像 鑑賞など	目標値	参加者数：6名 (ジャズ4名、能 2名) 入場者数： 300名(鑑賞者 数)
		①横須賀市立山崎小学 校、大津中学校 ②横須賀市立富士見小 学校、池上小学校、森崎 小学校		実績値	参加者数：5名 (ジャズ3名、能 2名) 入場者数： 920名(鑑賞者数 ジャズ657名、 能263名)

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>横須賀芸術劇場は、芸術文化の賑わいの拠点として、潤いある豊かな市民生活と地域社会を実現する社会的役割を持っています。当財団では、その役割を果たすために4つのビジョン「創る・発信する」「集う・交わる」「育む・支える」「つながる・応える」を掲げ事業を実施しています。助成対象「普及啓発事業」6事業はこれらのビジョンや地域の特性をふまえて、当財団が継続的に事業企画制作・運営してきた事業。</p> <p>6事業の内、5事業は市民参加型の事業でもあり、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けて1事業は中止、5事業は内容の変更を余儀なくされたため、経費的には要望書の53%の結果となりましたが、内容的には4つのビジョンに従い劇場の社会的役割を継続的に果たすことができたと考えます。</p> <p>【事業番号1】：ジャズの街・横須賀ならではの35周年記念のジャズ祭。劇場での本公演以外に、近隣商業施設内との連携により写真展やジャズ・ライブ、市内小中学校での出張ライブを実施し、幅広い年齢層がジャズに親しめる機会を提供するとともに「ジャズの街・横須賀」の周知と賑わい創出に貢献しました。</p> <p>【事業番号3】：劇場専属の少年少女合唱団の年間活動は、感染症の影響により約半分がリモートでの実施となった一方で、2回の定期演奏会については感染症対策を施した上で劇場で実施。団員が目標をもって活動を続けられるよう工夫し、豊かな感性や社会性を育む機会を継続することができました。</p> <p>【事業番号4】：横須賀芸術劇場合唱団活動では、目標としていた「第九」演奏会は実現できませんでしたが、複数回にわたる第九合唱ワークショップを行い、クローズでその発表の機会を設けました。二年に亘り活動が中断していた合唱団員の“歌いたい”要望や高度な文化的欲求の充足に応えることができました。</p> <p>【事業番号5】：不特定多数が集う“オープンデー”は中止とし、一般向けおよび子どものための劇場裏側探検ツアーは感染症対策を施して実施。幅広い年齢層のお客様の“劇場”や“舞台芸術”への興味喚起と理解促進を図ることができました。</p> <p>【事業番号6】：学校からの要望に応じて予定より1回増やして実施。小中学生が伝統芸能やジャズに親しみ、アーティストの交流を図ることで彼らの文化芸術への理解を深め、心豊かな成長に貢献することができました。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>地域の中核劇場として、横須賀の地域性を活かした質の高い公演を行い、また近隣商業施設と連携できたことは、街の賑わい創出や将来も見据えた協力体制の土台構築に繋がりました。また、コロナ禍により、活動休止また大きな制約を受けていた合唱団活動をリモート・レッスン等新たな取り組みも入れながら工夫して実現できたこと、幅広い年齢層を対象とした事業を企画・制作・運営できたことは、市民が文化芸術を享受できる機会の提供や未来の文化の担い手の育成、潤いある市民生活への貢献につながりました。助成金を活用したことで、赤字補填となるだけでなく、広報を強化することが出来、これら事業の認知度向上や継続を図ることが出来、総じて文化的、社会的、経済的意義は大きいものと考えます。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 【目標達成状況】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業番号2は中止。4は内容を変更して実施。5は一部中止。

【事業番号1】：目標の一つである公演満足度を97.1%から97.5%まで増加は、未達成96.2%（対目標値△1.3%）となったが、35周年記念公演として、地元の商業施設の映画館と連携を図り、映画館を会場とした、映画チケット付きジャズライブやヨコスカジャズドリームの歴史を振り返る写真展を開催し、地域とともに戦後ジャズ発祥の地、横須賀でジャズを気軽に楽しみその歴史も振り返ることのできる事業を組み立て、成功させることができました。

【事業番号3】：リモート練習や対面練習を組み合わせ実施。計画していた訪問コンサートなどは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。目標である、新団員を15名以上獲得するについては、未達成11名（対目標値△4名）となったが、団員の意欲を高める工夫をしながら、持続的に練習および演奏活動ができました。

【事業番号4】：第九公演から計画変更し、第九合唱ワークショップを実施。目標である参加者数200名については、コロナ対策として参加人数を上限120名に絞ったため、結果、未達成とはなりましたが、無観客ながらも、ステージで歌うという喜びを市民に提供することができました。

【事業番号5】：劇場オープンデーは不特定多数の方が来場し劇場内を滞留するイベントとなり、感染防止対策が難しいと判断し中止。バックステージツアーについては、目標満足度90%に対し平均91.8%と達成。参加者もすべての回で定員に達し、劇場という文化創造拠点に対する興味の高さが窺えました。子どもの参加には舞台セットを仕込むという体験を通じて、彼らの興味を掘り起こし、舞台芸術への理解を深めることができました。

【事業番号6】：能楽ワークショップ、ジャズライブなどを実施。目標である小学校だけではなく、中学校への派遣を実現することについては、中学校1校・小学校4校と達成。ジャズではプロのミュージシャンの職業に就くまでの努力の過程を自身が語ったほか、それに関する質疑応答も踏まえ、キャリア教育の一端としても本事業を効果的に実施する事ができました。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間（日程）、事業内容、事業費について、新型コロナウイルス感染症拡大防止により、一部中止とした事業はあるが、その他は内容や日程を変更し実施することができました。

#### ■事業期間について

【事業番号1】：公演日はもとより当初予定していた地元の商業施設のライブイベントと写真展についても、予定した期間で有効的に実施する事ができました。

【事業番号2】：長引く新型コロナウイルス感染症の影響を受け、公演実施のための十分なリハーサルを行う事が困難であることや、舞台上およびバックステージにおける課題を解決し、すべての出演者が安心できる環境で音楽を創ることが難しい状況であることを踏まえ公演を中止しました。

【事業番号3】：コロナ禍でも練習活動が維持できるよう工夫をし、安心安全な環境を整えて、活動の根幹である2回の定期演奏会を計画通り実施することができました。一方で、市内の福祉施設などへの訪問コンサートはコロナ禍においてニーズがなく、団員の安全性の確保の観点から実施見送りとしました。

【事業番号4】：長引く新型コロナウイルス感染症の影響を受け、公演実施のための十分なリハーサルを行う事が困難であることや、オーケストラ、合唱団ともに市民（アマチュア）の参加者であることなど、徹底した感染対策が難しいと判断し公演を中止し、第九合唱のワークショップに変更。活動期間を8月～12月計17回から11月～12月の計9回に縮小して実施しました。

【事業番号5】：「劇場オープンデー」は新型コロナウイルス感染症の流行が拡大していることを受け、不特定多数の方が来場し、劇場内を滞留して楽しんでいただくイベントは感染対策が徹底できないと判断し、出演者や参加者の募集のタイミングで中止を決定しました。

そのほか、8月17日、18日の子どものための劇場裏側探検ツアーと9月7日のバックステージツアーは緊急事態宣言が発令されたため、日程を10月と3月に延期し実施しました。

【事業番号6】：6月に予定していたジャズライブは予定通り、市内小学校と中学校で実施することができました。当初9月に予定していた能のワークショップは希望校が予定を上回ったため、回数を増やして、10月、11月、12月と各1校計3校の小学校を訪問することができ、より多くの子ども達たちが、日本の伝統芸能である能楽に触れる機会を提供できました。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### ■事業費について

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としての入場制限がない期間の実施ではあったが、外出自粛の世情もあり、チケット収入については、当初の予定より低いものとなりました。その他、事業全般において新型コロナウイルス感染症の影響により中止・変更となった事業については、当初予定より支出が減額となりました。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

今回の申請事業は、劇場の社会的役割を果たすためのビジョン（(1) 妥当性参照）に沿って、財団が培ってきた企画調整力、制作力、人的ネットワークを活かして製作してきた事業であり、幅広い年齢層を対象としていました。参加型の事業においては、コロナ禍であっても参加者のためにできることを模索し、創意工夫をして取り組みに挑戦しました。

創造性について特筆すべき点は、下記の通り。

#### 【事業番号1】：ヨコスカ ジャズ ドリームス 2021

横須賀は、アメリカ文化とゆかりが深く、戦後ジャズ復興の地としての歴史的背景をもっており、その地域性を背景に継続してきた本公演の 35 周年記念事業。当方指定のプロデューサーとの連携により若手からベテランの出演者をラインアップし、小編成のコンボからビッグバンド、ゲストコーナーなどフェスティバルらしい構成を企画。出演者によるフィナーレのジャズ・セッションは独自性があり本公演の特長となっています。

#### 【事業番号3】：横須賀芸術劇場少年少女合唱団

年2回の定期演奏会やプロとの共演ができる音楽性レベルを目指して活動。合唱界で活躍する指導者を招いて良質なレッスンを行う他、アドバイザーを設置し、活動内容だけではなく合唱活動を通じた子どもたちの育成について協議する機会を設けている。コロナ禍において活動に様々な制約を受けたものの、ZOOMを活用したレッスンや練習動画の作成、対面練習と動画配信の複合など新たな練習形式を用いました。対面練習では、劇場施設という強みを生かして安心安全な環境を提供することで活動継続を図ることができました。団員に質の高い発表の機会を提供することができ、地域の子どもたちによる音楽文化の発信に貢献したと考えます。来場者アンケートによる顧客満足度（2公演平均）：97.5%

#### 【事業番号4】：横須賀芸術劇場合唱団

指導者は、常任指揮者として財団が指名しているプロの音楽家を迎え活動を行いました。コロナ禍により「第九合唱ワークショップ」へ事業変更したため、参加者には財団が製作した自主練習用の教材やレッスン動画を活用して準備を進めてもらうとともに、指導者によるグループ別の対面レッスン2回を経て最終日に、主任ピアニストが編曲し、伴奏してのクローズの合同発表会を行う方式としました。参加者からは「久しぶりに歌わせていただき、充実した時間を過ごせた」「音楽やアートなどの文化活動は不要不急ではないと切に感じます」等、活動に参加できたことへの充実感や活動継続への希望を述べる意見が寄せられました。

#### 【事業番号5】：バックステージツアー/子どものための劇場裏側探検ツアー

財団職員と舞台スタッフが共にアイデアを出し合いながら、劇場の特長を活かした本施設ならではのバックステージツアーを製作。子どものための劇場裏側探検ツアーでは、オリジナル演出の朗読劇を用意し、参加者はその舞台の製作（舞台・音響・照明）を体験してから劇を鑑賞してもらう工夫をし、見学と体験を組み合わせた内容で行いました。普段劇場に足を運ぶ機会が少ない方にも気軽に劇場の施設に親しみ、イベントを楽しんでいただける機会を提供することができました。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

新型コロナウイルス感染症の影響により、限られた条件の中で事業を継続し、地域の人々が鑑賞や文化活動を享受できる機会を提供、環境整備に努めました。地域の文化芸術振興の灯を絶やさず、発展向上に寄与できたと考えます。特筆すべき点は以下の通り。

【事業番号1】：「ジャズの街・よこすか」は横須賀の文化的特色の一つであるため、地域との連携をもって事業を実施することが、地域全体の文化的発展につながったものと考えます。

【事業番号3、4】：合唱団活動は、幅広い年齢の団員が、継続的に質の高い練習や発表の機会をもつことで、市民による実演芸術の発展につながったものと考えます。

【事業番号6】：2015年から財団が行っている事業ですが、当該年度はコロナ禍において、未だ学校行事等の多くが中止となっている背景も関連してか好評で、実施校から継続希望がありました。プログラムは、財団職員が学校と実演家との調整を行い実現しており、財団の自主制作公演として長く続けているジャズや能を取り上げました。ジャズのアウトリーチでは、事前に出演者と吹奏楽部の団員と一緒に練習をする機会を設け、アーティストの交流を持ち、本番の共演に繋げた。能のアウトリーチでは、「七騎落」など地域にゆかりのある作品をつかって、演者と子ども達が共に朗読するなどの工夫を施しました。

子ども達からのアンケートの反響の一例として、「ジャズを聴いたことがなかったけど、3つの楽器がそれぞれの楽器の良さを引き出し、自由に楽しくアレンジしながらやっていて、凄いと思った（中3）」「自分の好きなことを仕事としてやっていけるよう自分が本当に好きで努力できることを見つけたいと思った（中3）」、「最初は「般若」という鬼のような仮面が怖いと思っていたけれど、観世さんが「悲しい顔」にも見えると言っていてすごいと思いました。（小6）」、「能が600年も続いていることもすごいと思った。（中3）」など、目の当たりにしたからこそその生の声が多く寄せられました。

子ども達の興味や関心を広げるとともに、彼らの文化芸術活動にもよい刺激を与えたほか、キャリア教育として活用していただくことができました。この事業は、未来の文化の担い手の育成につながっており、地域の実演芸術や地域の文化芸術の進行の種まきに繋がっています。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当財団は、横須賀市からの指定管理料収入を財源としていますが、自主財源として利用料金収入（施設利用料、入場料）、助成金・企業等からの協賛金のほか、公的団体からの助成金等を獲得しながら、指定管理料のみに頼らない事業実施に努めています。この2年間コロナ禍による事業および貸出の制限・中止もあり、利用料金収入も大幅に減収する事態にも直面しました。それらの経験をもとに事業実施の重点はおさえつつ、経費縮減および今回のような助成金を活用し、自主財源を安定的に維持することが今後の組織の持続性への課題と捉えています。

その中で、特に今回の「普及啓発事業」の【事業番号1】「ヨコスカ ジャズ ドリームス 35th Anniversary」におけるジャズの普及事業や地域連携事業、そして【事業番号3・4】横須賀芸術劇場合唱団活動（大人・少年少女）、【事業番号5】劇場オープンデー、バックステージツアー、子どものための劇場裏側探検ツアー、【事業番号6】アーティスト派遣事業における、誰もが芸術文化を享受でき、創造するための支援や、次世代への投資である育成事業。これらの事業は、当劇場の下記ミッション、ビジョン（様式1-1に記載）を実現した事業となります。それらが、コロナ禍においても本助成金をもとに助成の趣旨を踏まえ、当初事業計画の変更を伴いながらも実施できたことは、PDCAサイクルの要素（事業計画の再検討、顧客アンケートの活用、次回への改善点の検討など）を含め、組織力向上および組織活動の持続的な発展のための大きな経験値を得られたものと考えます。

#### 《社会的役割（ミッション）》 ※【 】は、該当する事業番号

- |                               |                  |
|-------------------------------|------------------|
| ① 地域文化の拠点としての役割               | 【事業番号：1・3・4・5・6】 |
| ② 潤いのある豊かな市民生活と地域社会を実現するための役割 | 【事業番号：3・4・5・6】   |
| ③ 横須賀市の豊かな未来を創るための役割          | 【事業番号：1・3・4・5・6】 |

#### 《ビジョン》財団が地域の芸術文化振興の拠点として役割を果たすための方針

- |            |                  |
|------------|------------------|
| ① 創る・発信する  | 【事業番号：1・3・4・5・6】 |
| ② 集う・交わる   | 【事業番号：3・4・5・6】   |
| ③ 育む・支える   | 【事業番号：3・4・5・6】   |
| ④ つながる・応える | 【事業番号：1・3・5・6】   |

【事業番号1：ヨコスカ ジャズ ドリームス 35th Anniversary】

【事業番号3：令和3年度 横須賀芸術劇場少年少女合唱団活動】

【事業番号4：令和3年度 横須賀芸術劇場合唱団活動】

【事業番号5：劇場オープンデー、バックステージツアー、子どものための劇場裏側探検ツアー】

【事業番号6：令和3年度 アーティスト派遣事業】